

高坂古墳群(東松山市)

高坂神社



「村社 高坂神社」とある



拝殿



正面は本殿の覆屋







前神宮 大崎真勝命墓

前方は神社の裏手から西面に広がる高坂神社古墳(高坂9号墳)



前方の木々の中が高坂神社古墳(高坂9号墳)



高坂神社古墳(高坂9号墳)



ところで、ここは高坂8号墳のあったところ(最近、土地区画整理事業に伴って発掘調査された)













この辺りの8号墳と9号墳との間で最近、三角縁神獣鏡が発見された





三角縁神獸鏡が出土

県内初 3世紀製作

東松山・高坂古墳群 背面35字の銘文

東松山市教委は1日、市内の高坂古墳群4、7世紀築造から、女王尊弥呼に終み邪馬台国論争でも引用される三角縁神獸鏡(さんかくえんしんじゆきよ)1点を、ほぼ完全な形で出土したと発表した。同鏡は近畿を中心に多数見つかっているが、県内で確認されたのは初めて。3世紀中ごろ、大陸で作られた鏡とされ、背面に4神2獣の図柄と35字の銘文が刻まれている。同市教委は「比佐地域がヤマト政権の影響を早くから受けていた可能性を示す貴重な遺物」としている。12日から1週間、同市埋蔵文化財センターで一般公開される(19面)関連記事。

新開遺構は東武東上線高坂駅から東に約800m、県道21号沿いの高坂神社境内裏にある古墳周辺。土地区画整理事業に伴う発掘調査を8月から実施し、高坂8号墳主体部と見られる場所から、4世紀中ごろ国内で作られたとされる直径7・4mの銅文鏡(ねじもんきよ)1点と管玉1点、鉄製で長さ9・5

高坂古墳群で見つかった三角縁神獸鏡



三角縁神獸鏡の銘文

陳氏作善喜大好 上有戲守及龍虎 身有文章口齒巨 有聖人車王父母 渴飲玉泉食菓
陳氏の作りし鏡は大いに甚だ好しい。(鏡の)上に奇獸及び龍・虎が有る。(奇獸や龍虎の)身には紋章が有り、口には巨(大)を銜(くむ)える。(いにしえに)聖人・車王父・西王母が有り、渴けば玉泉を飲み、(飢えれば)菓(なつめ)を食らう

三角縁神獸鏡の断面が三角で鏡背面に神仙思想に基づく神像や靈獣の紋様を持つ銅鏡。畿内を中心に全国の古墳から500枚以上出土、関東では群馬県などで複数枚見つかっている。三國西晋時代に「魏の皇帝が卑弥呼の使いに鏡100枚を贈った」と魏志倭人伝が記す、239(景初3)年の年号が入ったものがあり「卑弥呼の鏡」とも呼ばれる。日本と中国のどちらで製造されたかが議論されているが、中国から1枚も発見されておらず、中国の工人が日本に渡って作ったという説もある。邪馬台国論争 中国の正史・魏志倭人伝に記された邪馬台国の所在地が畿内か九州かで明治期から続く論争。近畿を中心に出土する三角縁神獸鏡の位置付けも絡んで論争が続いている。中国の史書では邪馬台国は卑弥呼が治める女王國とあり、3世紀の日本列島の政治・社会の広がりをどの程度に考えるかが焦点。畿内説なら3世紀の日本は九州から畿内の広い範囲で統一され、その後のヤマト王権と直結する。九州説ならヤマト王権との関係が変わるが、九州から東に移ってヤマト王権になったとする東遷説もある。

の楕圓(やわがんな)水筒型の勾玉(まがた)点が出土した。神獸鏡は8号墳から離れた9号墳(高坂神社との間から、ほぼ完全)見つかった。直接の出土内区に4神像と靈獣(浮き出た半円影の紋)り、作者とみられる「字が円状に刻まれている」10月中旬の出土後、神獸鏡の研究で知られるシルクロード調査研究 崎正彦研究員(9)に依頼。全国で発見された調査を踏まえ「製作は260年の間で大陸へ入された銅鏡(はくよ)と判断した。

参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/matuyama/takasaka2.html>

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/matuyama/takasaka1.html>

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/matuyama/takasaka3.html>

以前「高坂館跡」として報告済みの場所には土塁として使われていた高済寺古墳(前方後円墳)があった(下の写真を参照のこと)

高坂1号墳(高済寺古墳)



墳頂にある「加賀爪氏累代墓」

